

104
納
本

アジアの危機と日本

アジア経済ブロック結成の提唱



柳 正義 著

特254

316

定
價
拾
五
錢

大日本公正會出版部發行

2



0022957-000

特254-316

アジアの危機と日本

柳正義・著

大日本公正會

昭和9

ADD

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第67条の規定に基づき、平成12年3月23日付けで文化庁長官の裁定を受け使用するもので

特 254
316

はしがき

丁度この著述を終つた頃に、とうとう關東廳職員が辭表を出し、新聞は在滿機構改革問

題爆發……と報じてゐた。

私はこの問題を檢して見て、第一に岡田首相の案外器量のない事を知り、第二に官紀の

紊亂に溢面を作り、第三に財閥、政黨の反軍根生の卑劣さに面を反け、第四に餘程國民の

しつかりと國是の何んたるかを自覺せねばならぬと思つた。
たつたあれだけの 對滿國策中の枝葉末節位のもつれが、明瞭に斷裁されず、亦國民の
輿論が歸趨に迷ふとは、實に嘆すべき事ではなからうか。

しつかりして果敢……と私は叫びたい。



アジア經濟アロツク結成の提唱

アジアの危機と日本

一、アジアの危機とは何ぞや

列強の日本抑壓の政策強化と
アジア隷屬の野望。

アジアの危機とは一体何を指すのか？と云へば、アジア隷屬の野望に燃ゆる歐米列強が日本の存在を喜ばずして、極端に日本抑壓の露骨なる政策を示して、勢い對日本との間に危険な空氣を醸成しつゝある情勢を指してゐるのである。

元來歐米列強は、烈々として、アジア大陸を吞噬せんとする野心に燃へ、現に彼等は征服者としての白人優越感の満足や、アジア民族を隷屬の民、劣等の民として虐げる事實はアジアの各地に行はれてゐるのであつて、當然、アジア民族の自由と獨立の正義の爲めに奮起せんとする、我國の國是と正面衝突をするのは必然の事象と見るの外はない。

かゝる意味に於て、歐米列強は日本がアジア大陸に膨脹進出することを極度に阻止して永生にアジア諸民族を經濟搾取の桎梏下に置かんとするのである。

然かもアジアの中軸をなす大支那は、特種の人情を有して獨立の霸氣なく、その尨大にして豊なる天然物資に恵れたる土地と、四億の人口を以て、無政府状態のまゝに不統一極まる國家を形成してゐるのであつて、あたかも歐洲大戰の結果經濟の萎微遲緩に陥つてゐる歐米列國にとり、亦となき好條件を具備したる好餌である。こゝに各國の霸道的搾取の野望が相集るのは必然的とも云へるのである。

彼等は、その野望を十分に満たすために、先づ新興日本の抑壓を期してゐるのである。その抑壓政策は各國各々の事情によつて、幾分色彩が異つてゐるが、今顯著なる事例のみを掲げて見ると。

ロシアの對日、滿武裝はどうか。ロシアが思想的に極東赤化の方針を變更して、武力的侵略主義に轉向したのは、滿洲帝國建國以降である。彼はその以前にあつては、コミンテルンを機關とするプロレタリア、農民小ブルヂユアの共產組織化を以て、思想的に極東侵略を計劃した。

しかし、その計劃は見事に書餅に歸したのである、即ち王道滿洲國の建設と、皇道日本の搖ぎなき思想の堅實さは、到底彼の齒の立つところでなく、こゝに一變して彼は武力侵略の用意を初めたのだ。

現に彼が極東に傾倒する兵力を算して見ると、沿海州ニコリスクル、ウラヂオストツク

に歩兵四個師團騎兵一個旅團を配備し、その兵數は實に十萬を超え、戰車隊として約三百五十臺の戰車があり、飛行機三百臺その中には恐るべき威力を有する爆撃機四十臺を數えウラヂオストツク要港は再建され、グレドコ附近、ブラゴヘ附近、ダウリア附近等に最新式の陣地構築が完了し、かくの如く浦鹽軍港には日本全土を爆撃するところの飛行機の鳳翼を張り、北滿國境に大兵を集注して滿洲國を脅威し、過般モロトフ人民委員會議長は「日本軍撃破の用意を有す」と放言し、その挑戰的態度を露骨にしてゐるのである。

かくの如くにして一方、支那本土に對する彼の魔の手はどのやうにして伸びてゐるか。支那に中國共產黨が成立したのは一九三〇年の秋であつた、かのコミステル代表者ウオハチンスキイの來支によつて成立を觀たのであつて茲來十三年餘、第十七回黨大會の報告には、一年間に十二萬人の黨員増加を報じ、その總計四十一萬六千人に達せりと揚言し、その管理する土地の面積七十萬平方キロに及ぶとなし、その支配下にある武裝力量は工農紅軍三十五萬、遊撃隊六十萬ありと云ひ、共產黨は數次の國內戰爭に於て訓練を経て、堅定な軍隊と化しつゝあり、良く五次に亘る蔣介石軍の包圍攻撃を撃破せりと發表してゐる。

この報告は、多少の彼等獨特の誇張ではあろうが、それにしても七十萬平方キロのソツエート區と、三十五萬の共產黨ありと自稱し得る程の發展は、けだし驚異に價するものであつて、輕視することの出来ないものがある。

今日の支那に於けるソヴェート區は、その大なるものを數へても

江西中央區（一九縣）江西東北區（六）江西、湖北、湖南省境區（七）江西、湖南省境區（三）湖北、湖南、四川省境區（十一）四川、陝西省境區（十三）陝西、甘肅省境區（三）河南、湖北、安徽省境區（六）等であつて、共產軍の遊撃するところ實に三百縣以上に及ぶものと推定されるのである。

この共產軍討伐に向ふ蔣介石は、陸海空の精銳を盡し延人員二百萬以上を以て、五ヶ年に亘つて猛烈に強襲するのだが、これに對して良く持ちこたへてゐる共產軍の實力は、相當なものと考えられて間違ひはなからう。

しかもソ聯は、對日政策の強化を計つて、米露の國交復活に成功し、あたかも遠交近攻の策に出づるかの如く、亦支那とも巧みに一たん斷絶した國交を回復して、以夷制夷の支那傳統の外交方針に乗じて、露支國交復活によりて共同的に日本の進出を抑壓せんと、愚なる支那に呼びかけて、その裏面に於ては、北平大使館及天津領事館を、中國共產黨の根據地となし、有能の赤露人は續々として各ソヴェート區に潜入し、全支の共產化に拍車をかけてゐるのである。

支那は、露支國交の回復で反日對策の強化がなし得られると妄信して赤露に追隨し、却つて自國の赤化を擴大しつゝあるに於てや、支那の無定見、愚劣なること及ぶなしと慨嘆

するの外はない。

米の極東政策と日本抑壓苦肉の策

は？米國は諸列強に比して極東への進出には一步遅れてゐるのである。それだけに米の極東方針は極めて漸新なものがあつた。彼は先づ門戶開放、機會均等と云ふ御都合の良い政策を掲げて太平洋を渡つて來た。

そして、かの義和團事件に於て、巧みに喰入つて支那留學生を自國に誘引し、亦支那に病院、學校等を建て大いに文化的施設をなして支那に接近した。たまたま歐洲大戰後米國が世界に於ける重要な地位を占むるに至つて、一九二一年ワシントンに諸國の會盟を催しこゝに於て、劃期的に支那問題が論せられ、その結果として、米國は日本から石井ラランシング協定を奪ひ、日英同盟を解消せしめて一方に於て支那に於ける日本の特種權益を放棄せしめ一方に於て日本の實力を削減することに成功し、他方支那に對しては、あたかも一度支那が日本に取られたものを取り還してやつたやうに思はせて恩を賣りつけると言ふ一舉兩得、一石二鳥の藝當を演じたのであつて、此頃日本は徒らに歐米心酔、追隨の他省るところなく、この屈辱的な條約を甘受したのであつた。

米國はかくして支那の信頼につけ入つて、本格的に乗り出して來たのである。

支那にして見れば、ワシントン條約の結果日本は歐米に及ぶことの出来ない、劣弱な國であつて何等恐るゝ足らずとの、淺臺な考を持つに至ると同時に、厚く米國を信頼するに至つたのである。

かくして米國は貿易の上に於ても斷然優勢を誇るに至つたのである。次に一九三二年度の貿易表を示すと、

支那の對主要國貿易狀態

國名	輸 入	百分比 (%)	輸 出	百分比 (%)	合 計
日 本	一四八、四三二、五三三	一三、九五	一〇七、四八四、九五九	二二、八〇	三五五、九一六、五二二
米 國	二六九、一七五、五〇〇	二五、四三	五九、九九三、〇二六	二二、二七	三三九、一六八、五二六
英 國	二一九、一九二、三五五	二一、二〇	三七、五八四、二六二	七、六二	一五、七〇八、四一七

と云つた如く躍進してゐるのである。(然し該表に於て米や英が支那に賣込一方で買手

にはなつて居らず、日支の貿易が輸出入殆んど相殺されてゐる點を御注意願ひたい)

亦米國は最近に於ては航空事業熱に燃えて、すでに米支航空契約が成立して、米支合辦になる中國航空公司が設立されて、着々として新航路の擴張が計劃實行されてゐるのであつて、支那に賣り込まれる飛行機の總額中七割は米國が占める云つた現狀である。

こうした一面に米國は支那空軍に喰入つて、杭州飛行學校には米人教官二十餘名が居つて、殆んど學校の全權を掌握してゐる。亦今日の支那中央軍の空軍兵力は、航空隊四、驅逐隊、爆撃隊、偵察隊、杭州飛行學校、厦門航空處及馬尾飛行學校で、飛行機二百臺となつてゐるが、これ等は全く米人の支配するところと言つて差支へないのである。

中央軍に次ぐ廣東軍の航空兵力は、飛行隊六、飛行學校一、飛行機百數十臺(詳細不明)となつてゐて、こゝにも米人士官がその實權を把握して、進んで政治的にも大いに活躍してゐると言はれてゐる。

かくの如く米國が支那空軍を援助するの程度を超えて、全く支那軍マークを附したる米國空軍の觀を呈する迄に努力してゐるのは何のためか、敢て讀者の心領意會に俟つ迄もなく、日本に對する示威であり、日本に對する抑壓の一手段と見て誤るまい。

英國の陰險なる日本抑壓

の策動は過般の滿洲事件の前後を通じて、日本人の忘るゝことの出来ないものだ。殊に綿州空襲當時に於ける英國の神出鬼没以て我國を不利に導いたのは恐らくいくら健忘症の者と雖想起するだろう。支那が無暗に強がつて、排日運動をやるのも之を煽動する英國に折半の責はある。

英國は表面紳士道を守るが如く上品に見せてゐて、それでゐて口密腹劍の策謀家である彼は遠くロシアの勢力がアジアを南下せんとした時、その唯一の寶庫印度防衛のために日本と握手して、ロシアを撃退すべく意圖した。しかして日本がロシアに決定的大勝利を博して、之をアジアより撃退するや、そろそろ反日の策を弄しはじめたのである。しかし飽く迄友誼を尊重する日本は、かの歐洲大戰に際しても何等獨乙に私怨なきに不拘、同盟の誼によつて參戦し、遠く太平洋は言はずもがな、印度洋、紅海、地中海迄軍艦を派して海上交通の維持に任じたのである。この武士道的日本の節度に比して彼はどのやうな友誼を示した乎。即ち歐洲大戰の終熄するや、スエズ以東を以て次の策戦地區とし、日本に備へて新嘉波に軍港の大擴張を行ひ、しかも日米若し戦はゞ、之を以て米國海軍の根據地たらしめんと放言したのである。

以上述べ來つたる如く、全く英露米の極東政策は一齊に日本抑壓を目的とするのであつて、今やアジアは之等諸國が鋭い睨み合ひをなしてゐるのである。

二、歐羅巴諸國の桎梏下に泣くアジア民族

日本の救出を一屢の望としてアジア
獨立の鬱勃たる機運起りつゝあり。

前述の如く私は英米露等の日本壓迫の政策を論じたが、亦同時に歐羅巴諸國の桎梏下に一切の自由を剝奪されて、日本の救出を唯一の望としてゐる、多くのアジア民族のある事を知らねばならない。

印度 は英國の一大寶庫となつてゐるものであつて、印度を喪失することは、即英國の没落であるさへされてゐるのである。

それだけに英國の印度行政は實に峻烈であつて、悉く印度民族の自由を剝奪して、三人以上の會談を嚴禁し、ステッキ一本すら自由に携行せしめる事を禁じてゐる有様であるかの歐洲大戰の時、印度人は巨億の財と數十萬の印度軍を組織して、歐洲戰場に英國のために戦つた。印度人がかく迄英國に忠勤をぬきんでたことには、英國がその代償として印度に完全なる自治を與へると口約したからであつた。然るに戦後この約束は果されたで

あらうか、否すべては裏切られて、益々その峻烈なる暴政は苛酷になつたのだ。しかし印度人は、この人道を無視して霸道擄取に苛酷なる鞭の下から印度獨立……の悲痛な聲を上げてゐる。見渡す限りアジアには獨立の國はなく、シヤムとて力弱く他を扶ける實力なく、支那とて大半は歐米の權力下にあり獨立國とは名のみ、たゞ極東の一角に曾て犯さるゝ事なく、曾て敗れしことなき儼然たる神國日本のみがアジア唯一の獨立尊嚴の國であることは、正に印度人にとつての心強き一縷の頼りである。

アジアの救世主日本よ起て……とは、亦印度革命志士の泣血の叫びである。

佛國に征服されたる印度支那

はどうか。その昔こゝ安南には日本人が五百名以上も移住して、當時の歐羅巴諸國に優越して、彼等に寸間の侵入も許さなかつた處である。こゝ日本にとつては歴史的に懐しい安南も、今は佛國の征服せるところとなつてゐる。

一七八七年阮福映が阮文惠を仆して、帝位を得るために、佛安條約を結んで帝位に昇つた。茲來佛國は安南に食指を動かして、宮廷の奥深く帝政を左右するに至り、その七世建福帝は佛國のために毒殺され、八世の咸宣王はアフリカのアルゼリアに幽囚された。かくの如く佛國の暴虐が非道に繰返さるゝに及んで遂に安南人は憤激し、支那も亦その屬邦の故

を以て之を支援し、明治十七年に清佛戦争さへ起り、ために佛軍は支那軍に撃破されたのだが、後支那が安南を佛國の保護國として承認せるが爲めに、佛國の制壓は極端となり皇帝をも自由に暗殺、幽閉した佛國は一般民衆をいかに取扱つたか、想像に難くないところだ。日露戦争後日本の眞力を知つて、安南の子弟續々として日本に留學し來つてその數百餘人に及んだが、佛國政府は之等の留學生を亡命者と看做して日本政府にその放逐を迫り故國安南にあつては、それ等留學子弟の父兄を投獄、或は死刑に處し、或は遠流に處すの暴虐を行ひ、一切故國との通信を斷絶したのである。百餘名の留學生は悲憤の涙を呑んで支那に渡りて、佛國報仇の陰謀をなすと聞くのである。今日では日本人は安南から遠避けられて、國內の事情は知る由もないが、かつては五百に餘る優勢な日本人が、安南に移住して楽しく平和な日を送つた思へば、果していつの日にか、この往昔の同胞を助ける事が出来るのだらうか。

今二、三アジア民族の虐げられる實情を摘録する私自身、熱い熱いものを胸奥に感じるのである。

日本を抑壓せんとする列國、日本の救出を俟つアジア民族、今この二つの事象を前にして我は卒直にその抱懷する國策を掲げて、日本朝野の士に訴へやう。

三、日、支、滿三國同盟して

アジア經濟ブロックを結成せよ

道の歐米心酔の迷夢も破れて、滿洲事變を機として新興滿洲帝國の建國となり、こゝに我國是は自主的にアジアの危機克服へ一步を印し、歴然鮮明を加へ來つて、今日に於ては滿洲帝國を扶けてアジアの平和を恒久に確立することが、日本の國是たること、一般國民もよく自覺し來つたところである。

しかし滿洲國の建國のみを以て、アジアの平和が確立されるとは、前項のアジアの實情に徴して見ても至難である。こゝに私は支那を包含するところの日支滿共同のアジア同盟を起す事を以て國是とすべしと主張する。

しかして、之が具体的大策は日、支、滿共同のアジア經濟ブロック確立の外になしと確信するものである。と同時に私は、之を以て必須必然の事なりと斷定する、今假りにこれを日支の兩面から觀察すると（この場合滿洲國は日本と利害を共にする故に敢て省略する）先づ支那側から檢ししやう。

大体支那の經濟は、極めて不統一なる政治組織に禍されて、充實を見ることを得ず、之

を系統的に觀察する事は極めて至難である。

こゝに資料ともなるべきものは、列國の投資現狀表である。我日本はその投資總計約二十五億四千萬圓に達し、他に對支文化事業投資約六千四百萬圓がある。（こゝには團匪賠償金等は省く）之を各國に比すると、

投資	英國	日本	ロシア	米國	佛國	獨乙
總投資額	一、二八九、二	一、二三六、九	二七三、二	一九六、八	一九二、四	八七、〇
經濟投資額	九三六、四	九二二、八	二七三、二	一六五、一	九五、〇	七五、〇
比率 %	八一、〇	七六、九	一〇〇、〇	七六、八	四九、四	八六、二

と言つた如く、斷然日本が重要な位置にあることが判然するのであつて、これを前項に掲げた貿易表に見ても、日本のみが支那にとつての最も好い得意先であつて、殊に隣に滿洲帝國の建國を觀た今日としては、支那の經濟的立直しは日本を中心としてなさるべき事自明の理であつて、嘗てラヒマン博士（聯盟保健部長）が熾んに支那の經濟開發を聯盟の援助によつてなすべしと論じたが、佛國の財政通モネは、其殆んど不可能事たることを道破して、日本を除いて支那の經濟開發は失敗に歸することを指摘するに至つたのである

今日ではこの道理に覺醒した者も支那には尠からず居るのであつて、聯盟頼むに足らずとなして、その有力なる財閥華僑は敬んで日本同胞に告ぐるの書をよこして、日本に共鳴せん事を慫慂し來つたのである。

支那政府としても、いつ迄も英米のためにその搾取の具に供されるよりも、亦赤露の思想的侵略に戦々たるよりも、公明正大なる日本と合一して、不羈獨立の經濟基礎を建て以て永遠の平和と繁榮に力を盡す事が、眞に支那自体を救ふの所以である事を知らねばならない。

私は今日迄、二、三有力なる支那人と該問題に就て會談したが、彼等も亦大いに關心を有してゐるのであつて、むしろ日本の實業家の方が、之を建議するに遲緩なるの感がある程だ。

日本側から見れば、アジア經濟ブロックの結成は必然の要求と言はねばならない。

一、英經濟ブロックに對抗する。

過去數世紀に亘る世界制覇の英帝國の征服史も、愈々その總決算をなすべき時代を迎へてゐる、彼は新興日本の膨脹發展を妬み、亦日本の世界經濟への躍進に對し、メードインジャパンを排拒すべしとの對日經濟ブロックの鞏固を計つて、日印會商の勃發するに及んでや、彼は平然として通商條約を破棄して今や徐々として日本に重壓を加へ來つた。

しかし、一面それは英帝國が躍進日本の進出を阻まんとする必死の拮抗を物語るものであつて、興亡の歴史はすではじまつてゐるのだ、英帝國没落の晩鐘は鳴り初めてゐる。されども歴史は人によつて動く、日本がこの英帝國との角逐に敗るれば、日本の一切の勢力は抑壓されて、戰敗國以上の悲惨を味ふの外はない。同時にアジアの解放は永遠の夢となるだろう。

この鞏固なる英經濟ブロックを仆すために敢てアジア經濟を以てなさねばならない。二、アジア獨立の第一歩

然して經濟的に獨立することは、同時に政治的獨立を意味する。日本と支那とが協力し聯合したとなれば、印度はもとよりアジア諸民族は、風を望んで獨立の旗を翻すであらうと確信する。

こゝに東洋に於ける日本の使命遂行があるのだ。

四、國是の遂行と國民の覺悟

皇道の使命を體得し、國力の充實を計り、威力を充實すべし。

皇道の使命

天神天祖肇國宏遠に徳を宣示され人倫の大本を訓へられ、一系の天子を中心に君民一如何等の搾取なき、何等の霸道なき皇道を保つ日本は、日本天皇の一系連綿たる事實を以て皇道の永生不滅、天壤無窮を保證されつゝ、實に萬邦無比の文明を把持してゐる。

この神國日本の使命とは、大理想とは何んである乎。實に八紘一字に皇道を以て四海を光澤し、全人類をして皇道のまにまに、恩恵を與へて、この地上に燦然たる神の國を建設するにある。

天皇神業の大理想が、神武天皇の御詔勅に拜する「故、此の如、荒ぶる神等を言向け和はし、不伏人等を退ひ撥けて……天の下治ろしめしましき。」とある如く、百姓照明、協和萬邦にあることを知つて、國民はたゞたゞ誓つて盡忠至誠の精神を以て、神業翼賛の責務を果さねばならぬ。

現今、世界の情勢を達觀すれば、正にこの大理想を宣揚するの一大機運が到來せることを思ふのである。

今や世界文明には大變革が行はれんとしてゐる。即ち歐羅巴の霸道に生ぜし物質文明が没落し、代つて東洋文化が世界を統一せんとしてゐる。

彼等の國に過去誇りし雄大華麗なる文明文化もあつた、しかし朝に興り夕に滅びて千變萬化して極まりなく、たゞ徒らに神性を没却した醜い鬭争の本能と、人類の生活的鬭争に

依つて争覇に終始して、今は泥濘の如く、汚れたる物質文明がその醜怪なる様相を曝してゐる。

腐爛せる歐羅巴文明に據るものは亡び、永生不滅の皇道に恩澤するものは國興り人榮えると言ふ、動かすべからざる事實は、滿洲帝國の建國に觀て照々と啓示された。

一方は興り榮え、一方は歐米に迫隨して國內紛争して亡國の挽歌を哀奏する、滿支の事情に徴して明かである。

日本が國是を樹て、之を遂行するに當つては、國民等しく神國たるの自覺に基き皇威八紘に掩ひ、皇恩四海に光澤するの神勅による皇道使命を奉じて、勇躍すべきである。然るに國內にありて尙歐米追隨の迷夢に捉はれて、或者國是を見るに西洋の霸道を以て律せんとする者あるに於てや、言語同斷と云ふの外はない。

この皇道の大使命に自覺、立脚して國是を樹つれば、先づ皇恩遍ねくアジア隸屬の民を救はねばならない。今その第一歩として滿洲帝國の建國を觀、こゝに續いて支那を包含するアジア聯盟の結成に盡すべきではないか。

自ら支那事情通となす人は、私の説に對して架空の論なりと、誠に忝けない批評を屢々頂戴するの光榮に浴するが、私をして云はしめれば、それは皇道使命の自覺なき過去の、歐米心醉當時の日本としては不可能であつたのであつて、國民が等しく皇道使命に自覺し

つゝある今日、それは決して不可能事ではなく、むしろ進んで達成せずんば已まずの勇猛心を以てこの使命の達成に努めねばならぬ。それは丁度歐米心醉者が、夢想だもせなかつた満洲建國が、實現したの道理は一つである。

國力の充實

かくの如く、大なる皇道使命を達するためには、當然力が伴はねばならない。力のない者が、いくら叫んでも、一片の空に歸し去るの外はない。こゝに於てや單に日本を護るに足る軍備に満足することは出来ない。即ち皇道使命を達するに充分なる軍備を必要とするのであつて、私は今日の軍部の主張すらが大いに物足りなく思ふのである。この點に就ては、昭和九年十月十日發行の陸軍省新聞班編「國防の本義と其強化の提唱」に譲つて詳述を避けることとする。

威力の充實

國是遂行のためには、亦威力の充實がなくてはならない。優柔不斷屈從的であつては到底成し得られない。

不正不義を斷滅する草薙神劍の精神を、しつかり把持せねばならない。威力を霸道の上に行ふ時、それは平和の攪亂者であり、天人の許さざる罪惡である。しかし正義人道の大本皇道の宣布を基とする國是の遂行にあつて、之を阻止抑壓せんとする者に對しては、斷乎として刀劍器仗を執持することは、正道であつて、草薙神劍の威力のよく之を照示されたる所である。

我國はすでに倫敦條約の締結に於ても、自らの威力を捐じてゐる。この非常時にあたりアジア隸屬の民を救はんとする日本は、過去の轍を踏むことなく、アジア民族のために敢て草薙神劍の威力を揮はねばならぬ。

五、日本の兒等よ

佛國哲人ポール、リチャールの詩

私は、本書の卷末に佛國の哲人ポール、リチャールの「日本の兒等よ」と題せし詩を以て飾り、日本人よアジアに覺醒して、重き使命を自覺せよと訴へん。

曙の子等よ、海原の子等よ、花と焰との國、力と美との國の子等よ。聞け。涯しなき海の諸の波が、日出づる諸子の島々を讃ふる榮譽の歌を。

諸子の國に七つの榮譽あり。故に又七つの大業あり。さらば聞け。其七つの榮譽と使

命とを。

一、獨り自由を失はざりしアジア唯一の民よ。貴國こそ自由をアジアに與ふべきものなれ。

二、曾て他國に隸屬せざりし唯一の民よ。一切の世の隸屬の民の爲めに起つは、貴國の任なり。

三、曾て亡びざりし唯一の民よ一切の人類の敵を亡すは貴國の使命なり。

四、新らしき科學と古き智慧と、歐羅巴の思想とアジアの思想とを、自己の内に統一せる唯一の民よ。之等二つの世界、來るべき世の之等兩面を統合するは貴國の任なり

五、流血の跡なき宗教を持せる唯一の民よ。一切の神々を統一して、更に神聖なる眞理を發揮するは貴國なり。

六、建國以來一系の天皇、永遠にわたる一大天皇を奉戴せる唯一の民よ。貴國は地上の萬國に向つて、人は皆一天の子にして、天を永遠の君主とする一個の帝國を建設せんことを教へんが爲めに生れたり。

七、萬國に優りて統一ある民よ。貴國は來るべき一切の統一に貢献せんために生れ、又貴國は戦士なれば、人類の平和を促さんが爲に生れたり。

(完)

大日本公正會の概要

(黨務局編)

立黨の精神

吾人が立黨の精神は、明治大帝の詔勅を旨としたるものであて、億兆同心、祭政一致の惟神の大道を中外に宣揚するにある。

詔勅

朕恭惟天神天祖立極垂統列皇相承繼
之述之祭政一致億兆同心治教明干上
風俗美于下而中世以降時有汗隆道有
顯晦治教之不洽也久矣今也天運循環
百度維新宣明治教以宣揚惟神之大道
也因新命宣教師以布教天下汝群臣衆
庶其體斯旨

明治三年正月三日御詔勅

命とを。

- 一、獨り自由を失はざりしアジア唯一の民よ。貴國こそ自由をアジアに與ふべきものなれ。
- 二、曾て他國に隸屬せざりし唯一の民よ。一切の世の隸屬の民の爲めに起つは、貴國の任なり。
- 三、曾て亡びざりし唯一の民よ一切の人類の敵を亡すは貴國の使命なり。
- 四、新らしき科學と古き智慧と、歐羅巴の思想とアジアの思想とを、自己の内に統一せる唯一の民よ。之等二つの世界、來るべき世の之等兩面を統合するは貴國の任なり
- 五、流血の跡なき宗教を持せる唯一の民よ。一切の神々を統一して、更に神聖なる眞理を發揮するは貴國なり。
- 六、建國以來一系の天皇、永遠にわたる一大天皇を奉戴せる唯一の民よ。貴國は地上の萬國に向つて、人は皆一天の子にして、天を永遠の君主とする一個の帝國を建設せんことを教へんが爲めに生れたり。
- 七、萬國に優りて統一ある民よ。貴國は來るべき一切の統一に貢献せんために生れ、又貴國は戦士なれば、人類の平和を促さんが爲に生れたり。

(完)

大日本公正會の概要

(黨務局編)

立黨の精神

吾人が立黨の精神は、明治大帝の詔勅を旨としたるものであて、億兆同心、祭政一致の惟神の大道を中外に宣揚するにある。

詔勅

朕恭惟天神天祖立極垂統列皇相承繼
之述之祭政一致億兆同心治教明干上
風俗美于下而中世以降時有汗隆道有
顯晦治教之不洽也久矣今也天運循環
百度維新宣明治教以宣揚惟神之大道
也因新命宣教師以布教天下汝群臣衆
庶其體斯旨

明治三年正月三日御詔勅

一、政治的經綸

政治の改革と肅正。

覇道的政黨政治は、今やその一切の罪惡性を遺憾なく曝露し盡したのであつて、買收選舉による偽造の多數黨をたのみて、一部の財閥、資本家と氣脈を通じて利權に專念し、政治を腐敗せしめて憲政の威信を失墜し、遂には國民思想の惡化を誘發するに至つてゐる。

之が革正は全國民の輿論となつて、或は政黨解消を論じ、或は強力獨裁政治を説くに至つてゐるが、元來我國は明治大帝の御詔勅に拜される如く、建國の肇よりの根本立教國であつて、一切の霸道なく搾取なく、實に惟神の道に基く崇高至嚴にして至仁大慈の天皇神政により、億兆同心忠烈の精神を以て天皇神政の冀賛をなし、寔に萬邦無比、君民一如の雄渾なる國體を保有するものである。

明治御維新の時徳川三百年の封建制度を打破して、新に立憲制度を興すにあつては、もとよりこの建國の大義を基準として、神政即憲政の至妙絶對の政道を確立するにあつたのであつて、誤つて政黨政治即憲政の邪道に陥り、ために今日の如き政治の腐敗を觀るに至つたのは、畢竟我を忘れて歐米に心酔したるに由るもの、この秋神政即立憲の本道に立還りて、大いに政治の大革正を行はねばならぬ。

即ち買收選舉制度の一大革正によりて眞の國家的人材を選出するべく。

即ち政黨を直ちに解消して單に政治研究の結社となし。

即ち一部特權財閥、資本家と政治家の結托を不可能とし亦之を犯せし者には嚴罰の方法をとりて根絶に努め。

即ち國民參政の眞意義を宣明にし、神聖絶對なる天皇神政冀賛の一大自覺を徹底せしむ

二、國是の確立

建國の大義に據りて國是を確立し、依つて我國の向ふところを宣明にし、朝に夕に國策の豹變を來す如きを斷じて戒め、國民全體に我國の指標を確認せしめ舉國一致、以て國是の遂行を期すべく

即ち列國の支那に於ける野望を抑壓し、日本の眞意を支那に悟らしめ、日支滿三國の親善提携を骨子として大アジア同盟を主唱、實現を期し。

即ち我自ら歐米迫隨の妄を打破して本然の自主獨往に還り、いやしくもアジアに於ける我國是と對立する一切の勢力を政治的に斷乎として抑壓し。

即ち内に國力を養ひて軍備の擴充を期し、國是遂行に必要な軍備を主張して、大いに武威を示して國是遂行を容易ならしむ。

三、經濟的經綸

我國經濟は今や膨脹發展の過程にあり、正に世界産業を風して、浸々乎たる飛躍を遂げつゝあるも、之を敵視し抑壓せんとする英國は從來の自由貿易政策を一變して、輸入割當制限を以て我國の市場を脅威し、英帝國經濟ブロックの強化を計りて我國産業を壓迫せんとしつゝあり、こゝに於てか我國は、その誇るべき民族性を發揮し、

即ち人口十億五千萬と、豊富なる天然物資を埋藏する龐大なる土地を有するアジアに經濟力の確立を期し、以てアジア經濟ブロックを確立して、共存共榮の本義を顯現し、英帝國經濟ブロックの壓迫に微動だもせざるべく。

即ち國內經濟は一大統制の下に秩序を正して、一存一榮の縣隔の差等を是正し、勞働者の品質向上と待遇を改善し、中小商工業者の發展策を講じ、農村の根本的立直りを計る即ち金融機關を國家に統一して、不勞所得を根絶し、資金の偏在を是し、庶民金融の圓滑を計る。

四、社會的經綸

兄弟同胞愛の精神に基きて大いに隣保事業を起し、貧者をして安んじて醫療を受けしめ生活苦による一家心中の如き悲惨を根絶すべし。

即ち地方にありては一町一村に、大都市にありては一區に各々隣保事業を起すべし。亦大いに民心振興の方法を講じて、浮薄輕兆の風を根絶すべし。

即ち風紀國策の徹底を期し、歐米模倣の齒の浮く如き風俗を嚴禁し、レコード、映画、娛樂本等にして日本の醇風を毒するものは斷然禁止し、カフェー、遊廓等は特定の地區にのみ許可し、一般家庭への之が影響を防ぐ。即ち大いに柔劍道を獎勵して鐵心剛骨の民心を作興すべし。

運動方針の一般

運動方針は即會風の一般を示すものにして、凡そ會と名の附せらるゝもの、實に多數に上り、且つ愛國的機運の醸成されたるに乗じて、謂ふところの愛國團體は數ふるに違もなきほどにして、何等の定見もなくして組織し、或は暴力的傾向を帯び或は強喝を常習とするものあり、正に玉石混肴して容易にその正邪の識別を困難ならしめつゝあり、茲に敢て運動方針の一般を明示する所以である。

先づ本會の運動にあたりては、會員相互に維持會を設けて以て運動資金に充つるものなり。

次に運動方針の大綱を示さば

- 一、國家の大改造は先づ一郷一郡より。
- 二、日本主義的修養によりて先づ自己の完成。
- 三、兄弟同胞愛に基き隣保的社會の建設。

に岐れるものにして、今その説明を附すれば、第一の國家の大改造は一郷一郡よりとの標語は、運動が一時的な花火線香式に終る事なくして、一步一步建設さるべきを強調するものにして、先づ自己の住む周圍に霸道的な醜い争覇がないか？兄弟同胞愛による自治が完成されてゐるか？例するならば在郷軍人會は何等の揉め事もなく地方民の信賴ある中堅となつてゐるか、青年團や衛生組合等が政黨のために選舉母胎に利用されてゐる傾向がないか、町全体、村全体の風紀が肅正されてゐるか、もしありとすれば、こゝから改造して行く熱意がなくてはならない。

第二の日本主義的修養によりて自己の完成と云ふ事は、他を救はんと欲する者は自己も救はねばならぬのであつて、互に口先だけの日本主義は耳障りになるばかり、日頃に日本主義的修養をして該博の智と膽略を練つて、國家有用の材たる事を志すべきである。眞の偉人傑士にして刻苦の修養を積ざる者は皆無である。自ら惟神の大道を悟り、皇命一体の眞髓を把握して、忠孝の本義に生きて、自己の利害以外何者もなきが如き、利己的個人主義に墜さざるやうに心懸ねばならぬ。

權門何する者ぞ、富貴も顧るに足らず、區々たる蝸牛角上の争をなすことなく、茫茫たる天に向つて使命を知るの、大西郷の如き人材が非常時日本の眞に要望するものであり、實に千万に代へ難き至寶であつて常に斯く修養鍊磨せねばならない。

かくして道を信じて、人能く道を弘む。即ち同志提携の元である。

本會が雜誌惟神の道を頒布するも、亦青年同志修養會を開くも皆この意に外ならない。第三の兄弟同胞愛に基き隣保的社會の建設とは、本會の經論概説に於て説明したるが如くなるも、一郷一郡に之を起すの目的であつて、本會々員は協力一致して之を地方の有力者に説きてその實現を期すべく、先づ會内に於てはその社會的職業（醫者、辯護士等）要職にあるものは、進んで會員のために奉仕の實を擧げるべく、現在にあつては辯護士春原源太郎君、辻本幸臣君等の奉仕があり、亦醫事方面にあつても將來かくあものと信じるのである。會員は兄弟同胞主義に徹底し、弱きを扶ける俠氣を發して他團體に範を示さねばならない。

即ち本會が過般の風災にあつて、本部附近の夜警に任じ、或は慰問品を携えて罹災地を訪ひ、大いに活躍せるが如きそれである。

茲に運動方針の一般を概説し終つたが、更に追記すべきは、本會は一個の政治結社にして社會的團體たるの領分を有し、本會より將來代議士或は府縣會議員等を立候補せしめる

事ありと雖も、それは國家の代議士を選出するの大義に則るものにして、本會が將來政權を
 夢見るが如きことは斷じてなく、眞に國家改造が行はるれば以て足るにある事を明示する
 ものである。

(完)

大日本公本會會務役員

黨務委員長	柳 正義	黨務委員	後藤竹次郎
常任理事	春原源太郎	黨務委員	佐野 徳松
常任理事	久米常隆	黨務委員	櫻井 邦
常任理事	辻本幸臣	黨務委員	横井 繁
常任理事	鳴尾芳太郎	黨務委員	扇野 乙松
常任理事	徳井義男	黨務委員	前川 留吉
黨務委員	羽尾利七	黨務委員	堀尾六右衛門
黨務委員	辻元次郎	青年隊隊長	日置健次郎
黨務委員	細野祐滋	青年隊參謀	岡本 武夫
黨務委員	合掌梅吉	青年隊參謀	香川菊太郎

入會申請書

入會申込書

氏名	年齢	現住所	職業	勤務先	紹介
香川 傑太郎					
岡本 五夫					
...					
...					
...					
...					
...					
...					
...					
...					
...					

拙者儀大日本公正會ノ趣旨ニ共鳴シ入會仕り度ク此段申込候也

大日本公正會御中

常務委員 香川 傑太郎
 常務委員 岡本 五夫
 常務委員 島田 隆一
 常務委員 島田 隆一
 常務委員 島田 隆一
 常務委員 島田 隆一
 常務委員 島田 隆一
 常務委員 島田 隆一
 常務委員 島田 隆一
 常務委員 島田 隆一
 常務委員 島田 隆一

不許複製

昭和九年十月二十九日印刷
 昭和九年十月三十日發行

(定價拾五錢)

大日本公正會

發行兼發行人 香川 菊太郎
 大阪市港區音羽町二丁目一番地

印刷所 公正會印刷部

アジア經濟プロツク結成論
 アジアの危機と日本

發行所 大日本公正會
 大阪市西區新町通二丁目二七
 電話新町三九〇九番

